



1532

按陽落穂集才五巻

- 一 任右忘件（中略）
- 一 希靈元法（中略）
- 一 任右忘件（中略）
- 一 楠成燈籠（中略）
- 一 西行烟（中略）
- 一 王皇寺領毒虫（中略）
- 一 彦清（中略）
- 一 新法寺取物（中略）



明治四年九月廿八日  
朝倉篁三



- 一 七巻 上りの事
- 一 長柄橋の文巻
- 一 目記
- 一 日光寺の御札

- 一 説全村の事
- 一 巧波は地蔵の事
- 一 芭蕉の四地蔵の事
- 一 兼て芭蕉葬式の事
- 一 寺時居寄附の事
- 一 寺の事
- 一 役者おの事
- 一 浪花十一年の事
- 一 大坂の岡谷の事
- 一 大坂の御札の事



たふよしと書きたり世に知れしとぞ

任右志海軍海軍事

任右の里人例の春のしお集はく海軍海軍  
戯と格ふとる海軍といふは是は海軍少集  
とらひ一遺風なるなり

楠一歳の控籠事

口部を重し節に於て格なりナノ格もあつたなり  
控籠る春なり建中二年の二月押込成建中と  
出陣あふ那入るる九日山田の御の余るる  
好古の人のえ控籠るるの御の御の御の御

西行畑の事

口部口部の事(せうくわい)西行畑の御の御  
法師の御初は居をむしりて御の御の御  
まゝに御の御

天竺寺領毒毒中事

天竺寺の御の御の御の御の御の御の御  
太子討つた御の御の御の御の御の御











半時居寄附の跋

大坂江ノ終之月山創丹は言ふ時居流の  
行笔せしむ時居は仙上之子海の流を  
猶よはする石の子の詩を寄進あるは時居  
り業ありて表進を那入りて流及の如く  
らむ

河津は鳥の

河津産鳥が新田くらしむも持く  
くらしむ人くらしむくらしむく

新田くらしむくらしむくらしむく

新田くらしむくらしむくらしむく

縁十王經卷第一

我汝舊里化成鳥鳥示怪語鳴

阿和薩加

小文也形去とまうくしむくらしむく

没者悲判

大坂江ノ終之月山創丹は言ふ時居流の  
行笔せしむ時居は仙上之子海の流を  
猶よはする石の子の詩を寄進あるは時居  
り業ありて表進を那入りて流及の如く  
らむ

あてなる事記さしらるゝこととて南中北東と記す同下  
去年八月の事ありし由く戯場のこと案あり判り  
しゆふ事解らるゝ儀もいふ事いふ事あり  
三月の事いふ事相模記述元之儀もいふ事  
たむ判りし事いふ事没者住宅の同くいふ事  
信角とて書書

一 度川崎郡在没 ちりあはれ信 漢尾上島

一 月彦 薨々子 ちりあはれ信 朝井出源

一 山下 地出 ちりあはれ信 中村歌

右道軒氏家系同 諸没者名をいふ事いふ事

右周防同 諸没者名をいふ事いふ事

尾澤の地出

井田の地出 源信

紀伊の地出

播磨の地出

度利の地出

没者住宅の同

三津の同 南毛の同 東毛の同 周防の同

中毛の同 北毛の同 西毛の同 東毛の同



千手園草花の心子難波に中橋を架け井を  
心舟渡り橋を心子流しを架け心舟を渡り  
心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り

心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り

心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り  
心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り  
心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り  
心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り

心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り

心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り  
心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り  
心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り

心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り

心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り  
心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り

心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り

心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り  
心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り  
心舟を渡り心舟を渡り心舟を渡り





物長子属してち宮の属してち上法皇代  
後母御つづけて席恒名も此の古縁とす  
般感清うううううううううううう  
ちまの

清きぬの上宮より行へしうううう  
月のまのよ月ひを流しあはれ  
清ひしううううううううう  
かりんとうううううううう  
此の如流長守領しあはれはま橋の  
朽あううううううううううう

ちまの埋しやうううううううう  
鶴毛清艶ひあもあはれううう  
とらあんはううううううう  
数寄の障りううううううう  
長中牛城ううううううう  
まの能のううううううう  
ううううううううううう  
ううううううううううう

宝永二年丁卯下院

長柄橋柱記



せし文は深楽はくら暇に橋をたて  
立かていしうに遊ば車踏はくらくんや  
高橋つらまける深水恒名をく肩月をうら  
かきうはもやうまふに我はうたがはうめり線  
南上橋(まがりくらくれ事体はたふしひ  
うきはもちかたりけ橋由さそのあ威のは  
このあまはくると方す 一余はうらまはうた  
かきうはもやうまふに我はうたがはうめり線  
たふしひ 南上橋(まがりくらくれ事体は  
たふしひ 南上橋(まがりくらくれ事体は

らん人のあまはくると方す の杜のあま

高深八年 柿澤下句 合書光録 幸又 實種  
化

長柄の橋はくらくれ事体は  
うらまはくると方す 一余はうらまはうた  
たふしひ 南上橋(まがりくらくれ事体は

鳥光録 郷土誌

津のむねはくらくれ事体は



根湯宿穂集 すいしき

一 國内十二郡 すいしき

希郡内石高村里教之度

一 村里 小あが江現文字

一 方及地 浪津救ふ

希津上洛

一 新徳町 すいしき

根湯宿穂集 すいしき

一 國内十二郡 すいしき

根湯宿の上管十二郡 八上管宿廢し十二郡

東のより南北山邊のその社あり地おほく

拾を全す西のより六南山の谷堀川の地あり

少精大は清のますと八里むし車高平所村の地

二五二拾七の音七拾九石或斗四斗一 二斗

様多村石高河川を余川に北流山新田田

新田石高九二石ある石村里於合石高九斗

新泉寺村枝別の村にありては、  
新泉寺村にありては、

一 住名部 二 武名部の界にありては、  
一 住名部 二 武名部の界にありては、

部界は、北の沼川丹北八上之部より、  
部界は、北の沼川丹北八上之部より、

海濱より、南の泉部、  
海濱より、南の泉部、

東生部、西生部の界にありては、  
東生部、西生部の界にありては、

之捨八ヶ所、  
之捨八ヶ所、

始、  
始、

一 東生部 高二之部、  
一 東生部 高二之部、

部界は、北の沼川、  
部界は、北の沼川、

西生部の界にありては、  
西生部の界にありては、

總て、  
總て、

一 流下部 二 武名部の界にありては、  
一 流下部 二 武名部の界にありては、

部界は、北の沼川、  
部界は、北の沼川、

南の西成部、  
南の西成部、

北の丹前、  
北の丹前、

一 流下部 高二之部、  
一 流下部 高二之部、

部界は、北の沼川、  
部界は、北の沼川、

北の横河、  
北の横河、

村にありては、  
村にありては、

二西成郡 高上り 或百七拾石 或斗七拾石

郡界ハ東成郡又河内郡の界ニ至ル

河内郡ハ山流下 高上り 二郡の界ニ至ル

西成郡ハ山流下 高上り 百七拾石

一普賢郡 高上り 或百七拾石 或斗七拾石

郡界ハ東流下 西河内郡ニ至ル

西成郡ハ山流下 高上り 村屋 斗七拾石

一河内郡 高上り 或百七拾石 或斗七拾石

郡界ハ東流下 高上り 或百七拾石 或斗七拾石

有馬二郡南ハ海ニ至ル 山丹 多井 村屋

總テ 百七拾石

一西成郡 高上り 或百七拾石 或斗七拾石

郡界ハ東流下 西河内郡ニ至ル 有馬郡

海ニ至ル 村屋 總テ 百七拾石

一普賢郡 高上り 或百七拾石 或斗七拾石

郡界ハ東流下 西河内郡ニ至ル 南ハ海ニ至ル

有馬郡 村屋 總テ 百七拾石

一河内郡 高上り 或百七拾石 或斗七拾石

東ハ普賢郡 西ハ河内郡 高上り 或百七拾石

有馬郡 村屋 總テ 百七拾石

一方を以て 高野山にて修治せる公斗を以て  
那界東ハ河合とて西に接列し如く兼書名の二部を以て  
東ハ丹波と名する其田部の二部を以て丹波郡に以て  
二部を以て 村を以て七十九ヶ所  
一 延喜郡 二 三 三 方 零 武 部 信 止 上 二 斗 七 斗 零 斗  
那界東ハ河合とて西に接列し如く兼書名の二部を以て  
丹波郡に以て 丹波郡 二 斗 七 斗 零 斗

村に以ての記述

土人ナリキリトシテ... 延喜郡 三斗七斗零斗  
東生部の内を以て... 信如 神内 吉伯 西 外  
乃のよりあつて... 濱上 急生 安威 味古  
乃のよりあつて... 延喜郡 三斗七斗零斗

西成郡 宗鴻 赤幣滝 膳百

本座郡 神元寺 龍人

菟原郡 味泥 土毛

牟婁郡 洲系 神戸 念水

古島郡 唐植 宅系

能登郡 松系

此系より... 事繁る... 流編... 也

古坂地中流神流名事

古坂地中流... 正徳元年

甲寅年七月

三代將軍家光... 流名事

古坂三心... 流名事

古坂... 流名事

古坂... 流名事

古坂... 流名事

古坂... 流名事

一 藤布百丈 轍上 大坂迄 若丁申

一 青洞百丈 轍上 日若書 記あり

るる様 京路を 大坂 下向 時 山 河 内 迄 是 迄  
今 多 村 の 川 迄 大 坂 迄 其 年 暮 申 申 申 申  
其 代 河 内 年 暮 申 申 申 申 申 申 申 申  
其 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申  
申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申  
申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申  
申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

一 御指 三石 二斗入 轍上

一 輕齋 三箱 二百入 日

右 無 轍 上 申 申 申 申 申 申 申 申  
付 の 御 時 後 三 石 迄 申 申 申 申 申 申  
付 及 御 御 下 向 申 申 申 申 申 申 申  
御 殿 御 御 下 向 申 申 申 申 申 申 申  
御 御 書 櫃 申 申 申 申 申 申 申 申  
右 御 下 向 申 申 申 申 申 申 申 申























